

# 2018年度 海外リサーチ・クラークシップ研究成果報告会を開催しました

5月14日、「2018年度海外リサーチ・クラークシップ研究成果報告会」を開催し、2019年1月～3月に海外15施設に派遣された医学科3年生16名が10週間の研究成果を報告しました。研究室紹介、研究内容、後輩へのアドバイス等、個性溢れる発表内容で、留学前より大きく成長した姿を披露しました。

\*リサーチ・クラークシップとは医学科2年生を対象としたプログラムで、早期に国内外の研究施設に参加することにより研究マインドを育てることを目的としています。



左より車谷医学部長、2018年度派遣学生16名、森准教授(右奥)

## MESSAGE

医学部長  
車谷 典男



本学は、学生の研究マインド育成のために、学生の自主研究を奨励するだけでなく、それを支援する仕組みを作っています。医学科2年生の3学期に希望者(もちろん選抜試験があります)に実施している海外の研究室への単身での10週間実習が、その一つです。全く違う環境下で、ホームステイ先と研究室をひたすら往復しながら、先駆ける研究者たちの研究に没頭する姿を間近に見て、新時代の息吹を感じることは、研究マインドを大きく育ててくれるものと確信しています。

基礎教育部長  
吉栖 正典  
(薬理学教授)



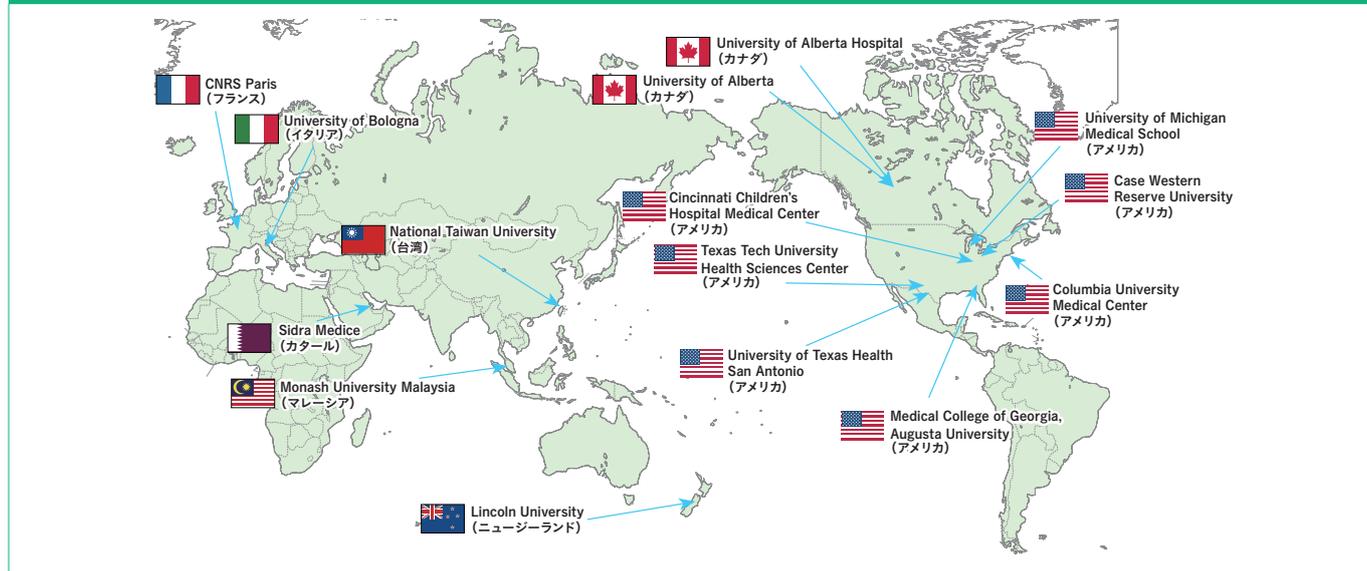
リサーチ・クラークシップはもともと4年時に行っていた研究室配属実習を衣替えしたものです。研究室配属はCBT期間をはさみ、4週間と短かったため、研究を行うというより研究を見学するといった方がふさわしいものでした。基礎医学教育協議会で議論して、2年生の1～3月の期間にリサーチ・クラークシップを行い、学外・海外への学生の派遣も決定しました。海外に派遣された学生の報告を聞くと、短期間で大きく成長されたことを実感します。

リサーチ・クラークシップ  
海外派遣担当教員  
森 英一郎  
(未来基礎医学准教授)



本学での海外リサーチ・クラークシップ3年目となる昨年度は、これまでで最大となる15の研究室に16名を派遣しました。多くの学内の先生方からの紹介で、過去3年間で合計38の研究室に43名を派遣してきました。帰国後も研究室に所属して研究活動を継続する学生が徐々に増えてきており、本学の学生の中に、研究マインドが少しずつ根付いてきているという印象を持っています。在学中から卒業へと継続性を持たせることが出来るような体制を整えていきたいと思っています。

## 2018年度リサーチ・クラークシップ海外派遣先(15施設)



リサーチ・クラークシップ体験談

医学科3年 渡邊 真子

派遣先：Division of Pulmonary, Critical Care and Sleep Medicine, Case Western Reserve University

今回の海外派遣は、2ヶ月という研究を行うには短い期間でしたが、その中で学び、吸収したことは非常に多く、今後自分が進んで行く道においても大いに役立つことばかりでした。中でも、非常にダイナミックなプロジェクトを行っている研究室に通う中で、研究は辛抱強く試行錯誤を重ねる過程なのだとことを学びました。

アメリカでの生活は初めてのことも多く、毎日がとても刺激的でした。研究のことだけでなく、アメリカという国について今まで知らなかったことをたくさん学び、様々な人と交流することで、視野が大きく広がったように感じています。

今回得られた経験を活かして、今後も様々なことにチャレンジする精神を持っていきたいと思います。

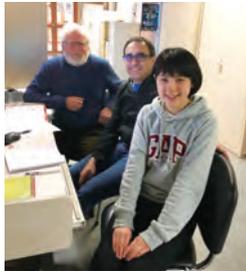


大学医学部キャンパス前にて

医学科3年 中前 和

派遣先：Laboratoire des Protéines et des Systèmes Membranaires (LPSM), Institut de Biologie Intégrative de la Cellule (I2BC) and Institut des Sciences du Vivant Frédéric-JOLIOT

私はフランスの研究室で二か月半お世話になりました。親切な先生の下で毎日朝から晩まで研究させて頂き、研究の進め方やサイエンスとの向き合い方など研究者として大切なことを肌で感じて学ぶことができました。積極的に質問したり、沢山の失敗をしながら学んだりと、学生の立場だからこそできることも多く、また、早い段階で海外の研究に触れることは、残りの学生生活にできること、やりたいこと、延いてはそれ以降の将来のビジョン、を考えるにあたり、非常に良い経験になりました。短い期間ではありましたが、母国語の通じない異国の地で様々な国の人や文化と交流し、研究面だけでなく、人間性の面でも大きく成長して帰国することができました。最後にこの貴重な機会を与えて下さった方々に感謝申し上げ、この意を忘れず返返しできるように精進して参ろうと思います。

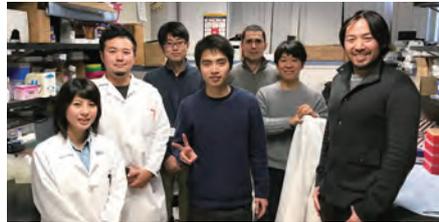


With Jose Luis & LE MAIRE Marc

医学科3年 西岡 樹

派遣先：Kamada Laboratory, Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, University of Michigan Medical School

私はアメリカのミシガン大学鎌田ラボでリサーチクラークシップを行いました。最初の頃は、自分の知識の少なさが原因で、細かい研究内容や実験の方針を理解できない部分があり、悔しい思いをしました。なんとか理解したいという思いで努力していると、徐々に先生方のディスカッションにも参加できるようになり、自分なりの意見を述べることもできるようになりました。より一層実験へのやる気が出ましたし、予想に反する結果が得られたときも、その結果を考察することが非常に楽しくなりました。理解できないことや難しいことに対して、屈することなく熱意を持って頑張ることが研究をするうえで大切なことであり、それは今後の自分の人生においても大切なことだと学びました。日本でもミシガンでの経験を活かして頑張りたいと思います。



鎌田ラボのメンバー

医学科3年 鄭 美栄

派遣先：Orthopedic Pathophysiology and Regenerative Medicine Unit, Rizzoli Orthopedic Institute, Bologna, Italy.

私はイタリアのBolognaにあるNicola Baldini教授の研究室で約2ヶ月間、実習させていただきました。研究室内には先生方が20人程度いらっしゃって、今回は主に3名の先生から教わっていました。皆さんとても親切で、ラボの雰囲気も非常に暖かかったです。先生方の実験を見学させていただいたり、整形外科のmeetingや新しい機械の説明会への参加、関連論文の読解などを通じて沢山の経験操作や疾病に関する知識のみならず、実験の組み立て方等今後の学内での研究活動に活かせるような考え方を得ることができました。加えて海外で活動されている研究者の方々、そしてイタリアの医学部生や工学部生など、新たな友人と出会えたことも心の中の貴重な体験でした。



ラボで知り合ったイタリアの大学生と共に

医学科3年 森川 成孝

派遣先：University of Alberta Hospital Clinical Islet Laboratory

カナダでのリサーチ・クラークシップでは、想像以上に多くのことを吸収し体験できたと思います。実習をさせていただいた研究室の研究内容について深く学習できただけでなく、病院内のセミナーへ参加することなどを通じて様々な知識や経験を得ることができました。また現地で知り合った方々と文化や教育、価値観の違いなど様々な話を英語ですることを通し、2ヶ月という短い期間でありながらも視野がぐっと広がってゆく実感を得ることができました。お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、この貴重な経験をぜひ学内全体に波及させるだけでなく、今後の学生生活や医師としてのキャリアプランを考えてゆく糧としてと考えています。



手術見学後、ラボ近くにて

医学科3年 佐々木 俊秀

派遣先：Department of Surgery, National Taiwan University Hospital

台湾大学病院で脾腫瘍に関する臨床研究をさせていただきました。手術や外来、回診も見学し、その背景を含めて臨床研究がどのようなものであるかを勉強することができました。外科の先生の患者さんへの丁寧な接し方、手術への真剣さ、他の職種の方や学生への優しさなどの身近な視点から国の枠を超えた医師どうしの繋がりとといった広い視点まで、様々な角度からたくさんのことを学びました。また、現地の学生と交流することで、彼らが積極的に医学を学んでいること、英語で活発に議論すること、留学生に対して親切に接してくれることなどを知り、自分を見つめなおす機会になりました。このような素晴らしい機会を与えてくださった皆様に感謝し、学んだことを生かしてこれから励んでまいります。



College of Medicine, National Taiwan Universityにて

2018年度実績リサーチ・クラークシップ海外派遣先・派遣学生 (15施設 16名)

- University of Michigan Medical School (USA)
- Monash University Malaysia (Malaysia)
- 野津 仁志
- University of Alberta Hospital (Canada)
- National Taiwan University (Taiwan)
- 佐々木 俊秀
- Columbia University Medical Center (USA)
- Texas Tech University Health Sciences Center (USA)
- 上垣 由紀
- Sidra Medicine (Qatar)
- Augusta University (USA)
- 小林 かれん
- University of Alberta (Canada)
- Lincoln University (New Zealand)
- 船内 文裕
- Cincinnati Children's Hospital Medical Center (USA)
- University of Texas Health San Antonio (USA)
- 米田 朋矢
- Institut de Biologie Intégrative de la Cellule (I2BC) and Institut des Sciences du Vivant Frédéric-JOLIOT (France)
- University of Bologna (Italy)
- 鄭 美栄
- Case Western Reserve University (USA)
- 西岡 樹
- 山岡 大真
- 森川 成孝
- 渡邊 真子
- 下 結香
- 小澤 亨平
- 北吉 史佳
- 藤原 邑
- 中前 和